

一般社団法人  
日本新聞製作技術懇話会  
会報 (隔月刊)  
VOL.47 No.1  
2023.1.1  
(通巻 277号)  
禁転載

# CONPT

Conference for Newspaper  
Production Technique-Japan

広報委員会編集  
編集人 下平 泰生  
東京都千代田区内幸町  
日本プレスセンタービル  
8階 (〒100-0011)  
電話 (03) 3503-3829  
FAX (03) 3503-3828  
<http://www.conpt.jp>



## 目次

年頭のご挨拶	日本新聞製作技術懇話会 会長	清水 英則	3
	日本新聞協会技術委員会 委員長	秋元 隆史	4
新聞技術賞を受賞して	読売新聞東京本社 制作局生産企画部主任	小野 輝雄	5
新聞メディアの潮流 欧州報告	在英ジャーナリスト	小林 恭子	7
楽事万歳	秋田魁新報社 制作センター長	渡部 永和	10
美味あっちこっち	信濃毎日新聞社	片山 宏規	11
第2回年末全体会議			11
わが職場あれこれ	中国新聞印刷 印刷発送部長	松繁 秀樹	12
CONPT日誌			12
会員名簿			13

●表紙写真提供：山梨日日新聞社 赤尾 聡氏 「本栖湖の西岸」

●表紙製版：(株)デイリースポーツ

●組版・印刷：(株)デイリースポーツ

## 年頭のご挨拶

# CONPT一丸、最適技術を発信

日本新聞製作技術懇話会  
会長

清水 英則

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年2月24日に始まったロシアによるウクライナ侵攻は長期化の様相を呈し、国際秩序を揺るがしただけではなく、世界経済を大きな混乱に陥れました。日本国内においても、物価高をはじめ国民生活に及ぼした影響は甚大なものがあります。昨年はウィズコロナのもと社会経済活動は回復傾向に向かっていただけに、大きな足かせになったことは間違いありません。

\*

日本新聞製作技術懇話会(CONPT)会員各社においても原材料価格や輸送費高騰の影響を大きく受けて生産設備機器、保守サービス、印刷資材などへの価格転嫁を余儀なくされております。一方、物価上昇により消費意欲が低下しているなか、新聞購読者への価格転嫁が難しい状況を考えると、非常に難しい判断を迫られることとなります。今年も継続かつ重要課題として新聞社の皆様とともに難局を乗り切る策を図ってまいりたいと思います。

今年のCONPTではウィズコロナのもと新聞社との対面による情報発信、共有の機会を再開させる活動として、技術対話プロジェクトを事業活動の柱の一つとして進めていきます。人口減時代における生産性改善はもちろんコロナ禍や物価高などの影響によって、新



聞製作に求められるニーズは大きく変化し、多様化されたと考えます。技術対話プロジェクトは日本新聞協会のご協力を得て、近未来で求められる技術について、より現実的で具体的なテーマをもとに情報共有を図る有意義な機会になるものと考えております。

また、CONPTが昨年実施したオンラインによる展示会を足掛かりとして、2024年秋を目指すJANPS（新聞製作技術展）の開催準備を進めます。前回開催(2018年)から6年が経ち、新聞業界の状況は大きく変わっています。成功させるためには今までとは違う新たな視点で企画を練る必要があります。現在の新聞界が求めるモノ・コトを明確化し、来場者・出展社ともに確かな価値を得られる展示会でなければなりません。企画検討においては引き続き日本新聞協会のご協力をいただきたく、紙上を借りてお願いをいたします。

\*

コロナ禍をはじめ国内外に起きた予想だにできなかった事態によって、我々を取り巻く環境は劇的かつ急速な変化を迫られました。混沌の時代こそ新聞社が発信する情報の価値は高まります。CONPTはこの価値を支える技術集団としての意識を持ち、新聞界に最適な技術・ソリューションを発信してまいります。

昨年末、カタールで開催されたサッカーW杯で日本代表が強豪国相手に劇的な逆転勝利を飾り、困難に立ち向かう勇気を我々に与えてくれました。CONPTも会員社の皆様とチーム一丸となり困難に立ち向かい、新聞界の活性化に努めてまいります。

本年もよろしくお願ひいたします。

# 「実のあるJANPS2024」へ二人三脚

日本新聞協会技術委員会 委員長  
秋元 隆史

新年明けましておめでとうございます。みなさまは今年、どのように新年を迎えられたでしょうか。ふるさとに帰省したり、旅先でゆったりくつろいだり、初詣で良き年をお願いしたり……。きっとここ1、2年とは違い、少しずつではあるけれど「普通のお正月」が戻ってきているのではないのでしょうか。

\*

新型コロナウイルスが中国・武漢で見つかったから、丸3年がたちました。引き続きオミクロン株が流行し、まだまだ油断はなりません、世の中はこのウイルスとの「つきあい方」を覚えてきたようです。昨年の新聞業界も広告収入を筆頭に、一時の大幅な減収から回復に向かった1年でした。その一方、別の「脅威」が新聞業界を覆っています。昨年2月のロシアによるウクライナ侵攻や、円安による資材価格の高騰です。新型コロナ禍から立ち直ろうとしている新聞業界に、再び逆風が吹き荒れています。

「一難去ってまた一難」の様相ですが、これまでと同様、いやこれまで以上に「技術」に対する期待は、高まっています。昨年2月に開催いただいた「CONPTのオンライン展示会」において、来場者の関心が高かった分野は、AI、DX、省人化、効率化、働き方改革等であったという報告もありました。さらには新聞製作コストの削減や、企業として求められ

ている「脱炭素」をはじめとする環境経営など、新聞社が抱える多くの課題に対し、技術の力によるプレイクスルーが、大いに期待されているところです。

\*

さて今年、来年秋に予定されているJANPSについて、本格的に準備作業を進める年です。新型コロナ禍や会場、開催時期の関係で6年ぶりの開催となりました。「満を持しての開催」ということで、例年より約半年準備の開始を早め、昨年11月から技術委員会メンバーに希望する出展内容や出展希望社などのアンケートを募っています。新聞製作に限らず、デジタルや販売、広告、総務など幅広い分野から募り、とりまとめることにしています。

私事になり恐縮ですが、私がJANPSを初めて訪れたのは、第17回、2003年のことでした。当時私は紙面編集に携わる「整理記者」で、ユーザーの立場で新システムの検証に携わっていました。次の第18回、2005年にも見学しましたが、輪転機・キャリアなどの実機が置かれ、メーカーが各ブースで新技術を競ってアピールしていた光景と、見学する多くの人たちの熱気に驚いたことを、今でも鮮明に覚えています。記録をひもとくと、私が当時見学したこの2回とも、入場者は2万人を超えており、一つのピークだったようです。

新聞業界が置かれている昨今の状況を見ると、「20年前の活況を再び」とはいかないかも知れません。仮にそうであったとしても、CONPTのみなさんとも知恵を出し合いながら、実のあるJANPSにすべく準備を進めていきたいと考えています。本年もどうぞよろしく願いいたします。

## 新聞技術賞を受賞して

# Auto-Pilot Printing AI活用による輪転機自動運転と スキルレス化を目指して

読売新聞東京本社  
制作局生産企画部主任

小野 輝雄

2022年度日本新聞協会新聞技術賞を受賞した「Auto-Pilot Printing（オートパイロットプリンティング・APP）AI活用による輪転機自動運転とスキルレス化を目指して」は、読売新聞東京本社制作局と三菱重工機械シス

テムが共同で開発し、印刷開始時から検紙速度(毎時6万部)までの自動運転化とスキルレス化を実現した。読売新聞鶴見工場(横浜市)を舞台にして、AI活用の基礎データ(オペレータの操作など)を約1年間蓄積し、テストおよび運用確認を繰り返し行い、開発検討開始から約3年を費やした。

印刷開始時は操作が多くスキルを求められる。APPはAIを活用して、機械設定の精度を向上し、早期テンション安定化などを含む自動運転機能により、検紙速度まで自動で加速する。これにより体裁調整やインキ色調調整などの操作回数の大幅な削減で微調整のみとなり、そして刷り出し時の損紙部数削減で差が確認でき、導入した効果は大きい。(図1参照)

サポート機能では、オペレーターの経験に基づいていた良紙判定や機

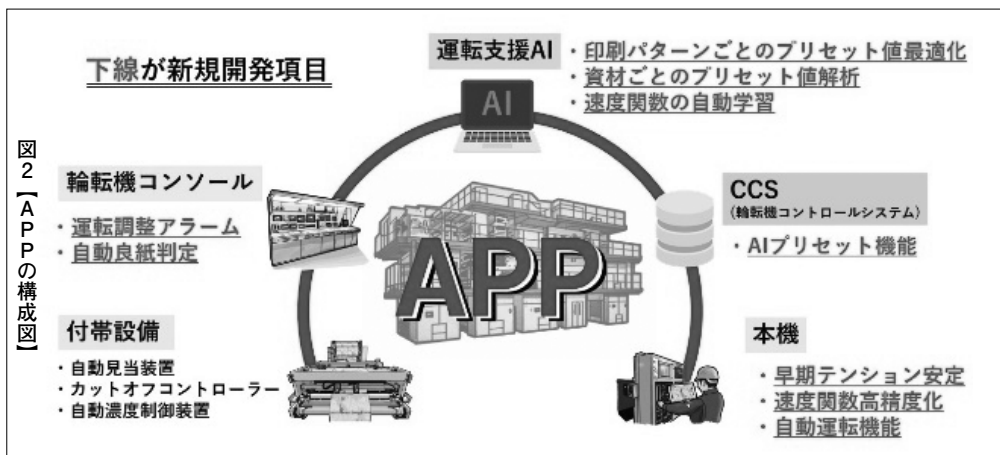
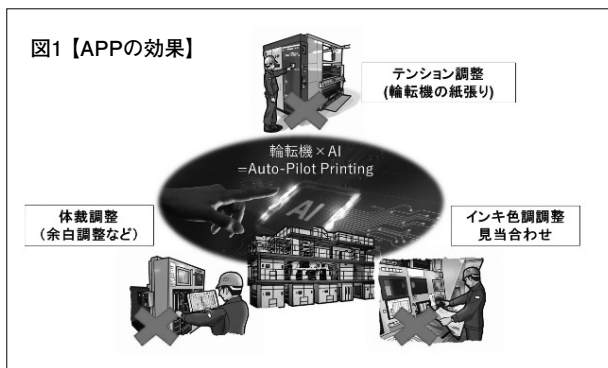
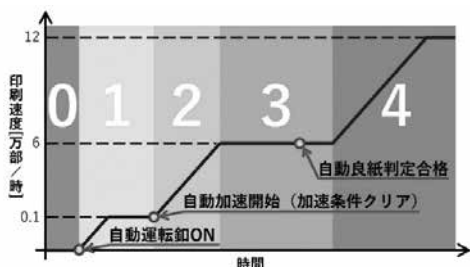


図3 【APPの動作】



0	AIプリセットの適用
1	テンション安定化 (緩動速テンションコントロール)
2	テンション安定化 (加速時テンション安定化)
3	自動良紙判定 運転調整アラーム機能
4	補正值速度関数の適用

械異常を自動で確認・検知し、スキルレス運転へ誘導する。運転開始、加速時、良紙判定時などは音声ガイダンスによりオペレーターへ通知する。APPにより、経験が浅くても熟練オペレーターと同等の高品質の印刷が可能となる。

APPは輪転機の各所とネットワークでつながれており、設定値などのデータを蓄積する。運転支援PCには、運転支援AIを搭載し、蓄積したデータの学習や適性化された各所の機械設定のプリセット及び補正量計算などを行う。画線率変換関数の学習にもAIを活用し、インキ速度関数の高精度化とともに濃度安定化に寄与した。(図2参照)

また、キーテクノロジーとして早期テンション安定化を開発した。これは従来の制御とは異なり、緩動速(毎時0・1万部)でテンションコントロールを開始すると、テンションバランスを自動判定し、条件を満たすと毎時6万部へ自動加速を行う。設定値に到達しない場合は、紙が緩んでいると判断し、低速紙張り機能が作動する。輪転機加速時の安定化と

して、機械の動作タイミングなどを変更した。

オペレーターの支援機能としては、自動良紙判定と運転調整アラームを開発した。自動良紙判定機能は紙面の断裁、インキ濃度、見当の三つの要素で判定し、合格条件を満たすと良紙判定完了を出力する。運転調整アラームは異常状態をオペレーターへ速やかに通知するようにコンソールの画面へ搭載した。(図3参照)

APP導入効果を検証するため、鶴見工場で同一地域版を印刷している輪転機2Fセット(APPあり)と3Fセット(APPなし)で比較を行った。9日間にわたり作業ごとの毎時12万部到達するまでの操作回数平均を比較したところ、1作業帯で2Fセットは17・5回、3Fセットは67・9回で、操作量は約74%減となり、大幅に減少した。

朝刊初版刷り出し損紙部数について、5カ月間の比較を行った。損紙部数の平均は2Fセットが373部、3Fが391部となり、18部の差が見られた。年間の試算では約100万円の削減となる。

今後はAPPを活用した自動運転を拡大し、印刷開始から印刷終了までの完全自動化を目指す予定だ。また、既設の4x1型、4x2型輪転機へ導入し検証を進める。

そして、どこまでAPPを進化させることができるか。もしも、輪転機がコントロールルームなどから遠隔で操作が可能となれば、労働環境の大幅改善が見込まれる。

これから労働力人口の減少が進み、オペレーターの採用は今以上に困難になる。APPによるスキルレス化、簡易化は必要不可欠で、新聞印刷工場共通の課題であるスキルの伝承や人員問題を解決し、働き方も変え、工場全体での人員資源の見直しも可能となるだろう。APPの実現は新聞印刷の自動運転で大きな一歩を踏み出したと言える。

これからも新聞業界の発展に寄与するため、新聞印刷技術の開発に邁進していきたい。

## 悩みは部数減少 どう対応するか

在英ジャーナリスト

小林 恭子

日本同様、欧州の新聞業界の悩みの種は発行部数の下落現象である。どのような対応をしているのだろうか。10月26-27日、独フランクフルトで開催された「欧州印刷業者フォーラム」(世界ニュース発行者協会=WAN-IFRA=主催)での議論を紹介したい。欧州の新聞社、印刷関連企業の代表者など約40人が参加した。

### ■アクセル・シュプリングァーの効率化戦略

——工場集約、締め切り前倒し

ドイツの出版大手アクセル・シュプリングァー社(本社ベルリン)が発行する大衆紙「ビルト」は、ドイツ国内で最も著名な新聞と言える。しかし、そんなビルトも発行部数の減少から逃れることはできなかった。同社傘下の



「紙面の小型化は断念」

アクセル・シュプリングァーの  
シュタウスバーク氏

印刷管理会社の最高経営責任者ベルトラム・シュタウスバーク氏は、「最新のニュースを掲載」「複数の地域版発行」「大判維持」を柱にする戦略を立ててきた。新聞の大きさを小

### ◆欧州印刷業者フォーラムに参加して

型タブロイド判にすれば、高騰する新聞用紙の経費が27%減少する、と見込んだ。しかし、「小型化に伴って広告のサイズも縮小し、広告単価を下げざるを得なくなった」(シュタウスバーク氏、26日のセッション)。収入減少の現実と直面し、小型化は断念したという。

2025年までの新計画では効率化を主眼に置く。国内に7カ所あった印刷工場を5カ所に集中させ、最終校了時間を午後7時に前倒しした(全国版の場合)。それまでは、スポーツの最新情報や突発的な事件・事故の報道を掲載するために夜中まで待つ必要があった。前倒しによって配送トラックの待機時間、機械や人手の無駄を減らすことができた。同時に、スポーツの試合の結果や地方特有のニュースなどの掲載用に数面を柔軟に使えるようにした。締め切りを早めたことによる発行部数への負の影響はほとんどなく、広告主からも不満は出なかった。印刷業務の効率化は、これからも継続して取り組むという。

### ■サステナビリティに取り組む

——ジェンダー平等など6つの目標

フォーラム2日目はサステナビリティ(「持続可能性」)がテーマとなった。演壇に立ったのは、ドイツ西部エッセンに本社を置く出版大手フンケ・メディアグループのグンドゥラ・ウラー氏である。同氏はグループのサステナビリティ及び供給部門のチーフ・オフィサーだ。

フンケは地方メディア、女性誌及びテレビガイド誌、デジタル・サービスの3つを業務

の中核とする。ジャーナリスト1500人、ほか編集・制作にかかわる人員4500人が国内の複数の拠点に配置されている。編集本部はベルリンにあり、日刊紙12紙を制作・発行するとともに15の地方サイトにコンテンツを提供する。フンケの全国版ニュースには650万人がアクセスする。国連は、2015年に「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を採択している。この中から、「目標5：ジェンダー平等の達成」「目標7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「目標8：働きがいも経済成長も」「目標9：産業と技術革新の基盤を作る」「目



フンケ・メディアグループのウラー氏

標12：作る責任使う責任」「目標13：気候変動に具体的な対策を取る」をフンケは自社で実行することにした。「2035年までにカーボン・ニュートラルにする」をゴールとしている。

フンケ・グループはサプライヤーにもサステナビリティを達成するための対策を講じるよう求め、すでにその55%が達成意思を表明したという。しかし、いくつかの問題点も見えてきた。「カーボン・ニュートラルを呼びかける広告の掲載をさらに強化する必要がある」、「エネルギーを多く使うオフセット印刷あるいはヒートセット印刷、さらに配送をサステナブルにする具体策の不足」などだ。

——拭えなかった“悪いイメージ”

ウラー氏のプレゼンテーションの後、会場ではワークショップが開催された。その一つはサステナビリティをテーマとし、プレゼン

テーションの内容を引き継ぐ形となった。司会役は、ベルギー、オランダ、ドイツなどに拠点を置くメディア複合企業メディアハウス傘下のプリンティング・パートナーズ社の最高経営責任者ポール・ハイプレヒト氏であった。「カーボン・ニュートラルの達成やサステナビリティの必要性は認めるが、我慢がならないのが紙の新聞に付いた悪いイメージだ」（ハイプレヒト氏）。ほかの参加者もこれに同意の声を上げる。「新聞は『死んだ木』からできている、木を切ってこれがそのまま新聞に使われる、だから環境に良くないものだ、というイメージがある。私たちはこのイメージに反論していく戦いに負けたのだと思う」。ドイツ大手全国紙からの参加者は「デジタル版の方が環境負荷が高いという調査を見たことがある」と発言した。パソコン使用やデータセンターの設置・管理など、デジタル版は「大量の電力を使っている」。問題は「デジタル版生成の環境負荷を計測する基準が定まっていない点だ。まっとうな比較ができない」。欧州連合(EU)レベルで定める、あるいはWAN-IFRAが手掛けてはどうかなどの意見が出た。

## ■25分でベストな相手を探す

——誰もが経費に敏感に

欧州印刷業者フォーラムは今年が2回目の開催で、新聞発行者とサプライヤーの情報交換の場であると同時に最善の提携相手を探す機会にもなっている。25分を1セッションとして、出版社とサプライヤーがテーブルを挟んで話す。フォーラムを運営するWAN-IFRAのインギ・オラフソン氏によると、「スピード・デートのようなものだ」という。「発行者とサプライヤーは長期的な関係を結んでいるのが普通だ。しかし、新型コロナウイルスの発生によるサプライチェーンの乱れ、エネルギー価格の高騰の影響で誰もが経費に敏感になった。去年は深刻な用紙不足も発生した。少し



でも条件が良いビジネスの相手を探し、欧州中から用紙を調達するために互いに声を掛け合うようになった。

ドイツ南西部にあるシュトゥットガルト・メディア大学のデトレフ・ハートマン教授によると、過去20年でドイツの新聞の発行部数は1日に約2000万部から現在は1000万部に半減した。各新聞社は電子版新聞に力を入れてきたが、その購読数は200万ほどで、紙の新聞の販売部数と比較すると「まだ小さい」。印刷された新聞を読者の元に運ぶまでの経費も大きな負担になっているという。ドイツの最低賃金時給12ユーロ(約1780円)を提供する必要があるためだ。

従来からの紙の新聞の発行部数の減少傾向に加え、光熱費の高騰や物価高に見舞われる欧州だが、ドイツに関しては、「大規模な解雇が発生しているわけではない」と教授もオラフソン氏も言う。早期退職を勧める、退職者が出た場合代わりの人員を雇用しないなどで乗り切っている。「価格も上げざるを得ない。紙の新聞は今後10年あるいは15年は継続するだろう。ただし、週に数回の発行に変わっていくのではないか」(ハートマン教授)。

——ドイツ新聞界は整理・統合の転換期

ベルギー北部モルツェルに本社を置く、印刷資材を提供するサプライヤーのアグファ・オフセット社のライナー・キーシッケ氏は「出張が多いため、普段は電子版でニュースを読む」という。同氏は新聞部門のマーケティング・マネジャーだ。自宅に帰ったときにたまっている新聞を手にする。「紙の新聞を読む人は高齢だ。市場は大きくなってはいかないだろう。各新聞で下落数は異なるが、前年比8%ほどで推移しているのではないか」。ドイツの新聞界は「整理・統合の転換期に入っている」。印刷工場の合理化で数が減ったために、新聞社は「毎朝、200\*から300\*先まで新聞を届ける」こともあるという。経費節約

のためアグファでも資材配達の頻度を変え出した。

—資材高騰で71%が「ページ削減」

WAN-IFRAは加盟社の印刷部門責任者に対し、2022年から23年にかけての見通しについてアンケート調査を行っている。その概要がフォーラムの場で発表された。

これによると、21年と比較して、22年の収入が減ったと答えた企業は52.4%、「変更なし」が19%、従業員数の変更があったのは66.7%、変更なしが19%。新聞用紙を含む物資の価格上昇、エネルギー価格高騰への対処法としてトップが「ページ数の減少」(71.4%)、「従業員数の調整」(66.7%)をあげた。新聞の印刷から包装用印刷に主業務を転換させる予定があるかと聞かれ、「ない」は82%だが、「いる」は18%だった。

## ■無料新聞 各国の事情

最後に無料新聞について補足したい。

ドイツにはほかの欧州他国にあるような無料新聞(「20ミニッツ」など)がない。アクセル・シュプリングラーを含む新聞大手が自ら無料新聞を発行して市場を飽和させ、外からやってくる無料紙の進出を止めたのである。

筆者が住む英国では無料朝刊紙「メトロ」、金融専門紙「シティAM」、夕刊紙「イブニング・スタンダード」(以前は有料紙)が通勤客を中心に人気を得てきた。しかし、コロナのパンデミック以来、会社と自宅での勤務を組み合わせる「ハイブリッド型」が広がった。無料新聞の発行部数は急降下し、広告収入が激減。新聞用紙代も22年9月時点で前年の2倍に増えた。有料にせよ、無料にせよ、欧州新聞界は厳しい年末を迎えている。

(写真は筆者撮影)

誌上 CONPT-TOUR

# 楽事万歳

## スロージョギング

秋田魁新報社 制作センター長

渡部 永和

慢性的な運動不足を解消するため、たまに近所の公園に出かけて軽く走ったりしている。その脇を、小学生らしき小さい子どもや自分より10歳程度は年長とみられるお年寄りが勢いよく駆け抜けてゆく。スロージョギングという言葉があるが、それに近いのかなと思う。長くても2<sup>キロ</sup>程度の距離を、歩くのと同じく変わらない速さで進むだけ。それでも走り終わるときには、毎回息が上がる。

この公園は秋田市中心部に近い「一つ森公園」。1周421・95<sup>メートル</sup>のジョギングコースが造られていて、計100周するとフルマラソンの距離に達するというのがみそ。中学校の運動部が練習に使っているときもあるが、たいていは親子やお年寄りの夫婦など、家族連れが和気あいあいと利用している市民憩いの場だ。

\*

1周の距離がフルマラソンの100分の1というのは、走る人にとって分かりやすく、目標を立てやすい。造った人はよく考えたものだ。遊び心が利いている—と感心していたが、しばらくは利用することがなかった。編集局でデスク業務をしていた40代の頃、このままでは体力がなくなる一方だとの思いに駆られ、休みの日に試しに走ってみてから、時々足を運ぶようになった。

実に熱心にコースを周回する、あるおばさんランナーに話を聞いたことがある。近所に住む70代女性。60歳の時から走り始め、毎回きっちり12周しているとのことだった。12周だと5<sup>キロ</sup>。それを走りきり、走行距離をスーパーなどで買った品物の金額と一緒に家計簿に記帳している。けがをして走れなくなった

時期もあるが、やめずに続けている。「速い遅いは問題じゃないんです」と充実感たっぷりに話していたのが印象的だった。

診療後にここでランニングするのが日課と教えてくれたのは、歯科医の50代男性。ダイエットのためフィットネスクラブに通い、ランニングマシンを利用するうち、案外自分は走れるんじゃないかと手応えを感じるようになった。その後、意を決してマラソンに挑戦。今やフルマラソン大会の常連だ。

\*

こんな走るの大好き人間たちがさっそうと駆け抜けるのに比べたら、まさにのろまなカメの様相なのだが、一向に力がかからないのだから仕方がない。こちらは最低限の健康維持が目的と割り切って、周囲の四季折々の景色を眺めながら、ほんのちょっと走れるだけでも上出来とささやかな満足感に浸っている。



多くの市民に利用されているジョギングコース

=11月

コースは森の木々に囲まれており、秋は鮮やかな紅葉が楽しめる。周辺には遊歩道がいくつも設けられているので、散策するだけでもリフレッシュできる。

ただ、冬は積雪で路面が見えなくなるため、利用することができず、運動不足は否めない。外勤記者時代と違い、会社の中だけで過ごすことが多いだけに、体はなまりがち。若い頃、先輩たちが冗談めかして口にしていた「原稿より健康」という言葉を思い出しながら、日常的な物忘れ防止とともに、劣化が始まっている体のケアにも気を配る毎日です。

## 一般社団法人 日本新聞製作技術懇話会

### 第2回年末全体会議を開催

日本新聞製作技術懇話会(CONPT-JAPAN)は一般社団法人として2回目の年末全体会議を12月16日に開催した。日本新聞協会から技術委員会の秋元隆史委員長(朝日新聞社製作本部長)、編集制作部の勝田洋人部長、桜井哲也技術・通信担当主管の3氏を来賓に迎え、28社34名(オンライン参加10名含む)が出席した。

オンラインの参加となった清水英則会長に代わり林克美副会長が開会挨拶を行い、「新聞社が読者にニュースを伝え続ける限り、CONPT会員社の果たす役割はかならずある。これからも皆様と一緒に新聞業界を発展させていきたい」と語った。

来賓挨拶で秋元委員長は「JANPS2024は満を持しての開催となる。技術委員会で希望する出展内容、出展希望社のアンケートを実施した。新聞製作に特化せず幅広い展示を目指したい」と述べた。勝田部長は「紙でもデジタルでも新聞社がより情報発信力を発揮するためにはCONPTの力が欠かせない」と挨拶した。

今回の総会では、決議事項はなく、2022年4月から11月までの事業中間報告ならびに次回JANPS、技術対話に関する報告が中心となった。林副会長は全体報告の中で、「コロナ禍はまだ収束に至っていないが、対面による活動が徐々に増えてきている」とした。この後、評議委員会報告に続いて、クラブ、企画、広報の3委員会と技術対話部会の報告、事務局から予算執行状況の報告があった。

## 道の駅おがわの「おやき」(長野県小川村)

信州の郷土食おやきをご存じだろうか。野菜などの具を小麦粉の生地で包んで焼いたり蒸したりするまんじゅうのような料理です。かつては山村のおやつや主食でしたが、今では駅ビルに専門店が入るような、信州の食の看板ともいえる存在です。

私がおやきに出合ったのは昭和40年代前半、松本市から小川村に引っ越した時です。長野駅からバスで2時間近くかかる山間地で、子供心にも「すごいところに来た」と思ったものです。近所の家に母に連れられて訪れた時、囲炉裏の灰の中に石のような丸いものが埋まっているのに気が付きました。その丸いものを家人が取り灰を払ってどうぞと勧めてきたのですが、「果たしてこれは食べ物なのだろうか」というのが第一印象でした。

当時、ご近所からおやきを頂くことが多かったのですが、具は漬かりすぎた野沢菜漬けの油いためや、切り干し大根など小学生にはハードルが高いものばかりで、唯一

美味あつちこち



この日ならんでいたのはうの花、あんこ、大根、青菜、にらキャベツ

小豆餡入りを食べたものです。

おやきはこの西山地域(小川村と長野市西部)の灰焼きおやきがルーツとされ、県内各地に広がる中で、調理法や具が工夫され根付いていったようです。

\*

道の駅おがわのおやきは、地元の女性らの手作り。具のバラエティーも豊富で、好みのものが見つかると思います。また長野駅ビルの「小川の庄 おやき村」や「いろは堂」も人気です。長野のお土産にひとついかがですか。

信濃毎日新聞  
片山宏規

あれ  
これ  
わが職場

## 女性オペレーター相次ぎ誕生

中国新聞印刷 印刷発送部長 松繁 秀樹

2021年6月に中国新聞広島制作センターと中国印刷が合併、中国新聞印刷として再スタートしました。合併後は6セット体制となり、中国新聞をはじめ聖教・公明・朝日・日刊スポーツ・日経・デイリースポーツを受託印刷しています。

当初は、初めて対応する媒体に戸惑う部員がいましたが、新社のスローガン「新たな共創」の下に、今では一致団結し印刷に励んでいます。

そんな中、2022年4月に現在の印刷発送部に女性社員が入社。戦前からの歴史も含め、初の女性オペレーター誕生となりました。前年の早い段階から女性オペレーターの採用を視野に、更衣室、シャワー室、仮眠室の準備をしていたため、入社時にスムーズに対応できました。また、初の女性オペレーターで不安でしたが、コミュニケーション能力の高い彼女のおかげで、職場はとても明るくなりました。

それもつかの間、ホームページの採用ページに彼女の動画メッセージをアップしたところ、女性の入社希望者から続々と面接の申し込みがあり、この1月に1人、4月に2人計3人の女性を採用することになりました。その結果、現在の更衣室、仮眠室のスペースが手狭となったため、役員室を削っての改築が必要となり急ピッチでの工事で1月の入社に間に合いました。

話は変わりますが、世界遺産・厳島神社はわが社から直線距離で約2.5kmにあります。先日、大鳥居の保存修理工事の足場や防護ネットが全体を覆っていた状態で宮島写生大会が開催され、難易度爆上がりとのニュースで話題になった厳島神社の大鳥居ですが、3年半に及ぶ修理も終了し、現在はすべてが撤去され新たな装いでそびえ立っています。現在の大鳥居は9代目と言われ、過去にもいろいろ修理をしていたようですが、今回はさまざまな検査をした上で修理がされたようで、そのため工事期間も当初は未定だったそうです。広島に来られた際は、お化粧直しが終わり、今とても朱色がまぶしい大鳥居を、是非ともそばで見られてはいかがでしょうか(潮の干満の確認が必要です)。

### CONPT 日誌

- 7月20日(水)第128回技術懇談会  
= 椿本チェイン埼玉工場見学会  
(21名参加)
- 9月8日(木)クラブ委員会(出席8名)
- 12日(月)企画委員会(出席11名)  
技術対話部会(出席9名)
- 15日(木)広報委員会(出席7名)
- 20日(火)評議委員会(出席8名)
- 11月8日(火)クラブ委員会(出席6名)
- 14日(月)技術対話部会(出席11名)  
企画委員会(出席9名)

- 17日(木)広報委員会(出席8名)
- 18日(金)第12回CONPT技術研究会  
= 日本電気(於日本記者クラブ・  
大会議室46名参加、内オンライン22名)
- 24日(木)理事会(出席6名)  
評議委員会(出席6名)
- 29日(火)第128回技術懇談会  
(尾崎元氏講演会、14名参加)
- 12月16日(金)臨時評議委員会(出席5名)  
第2回年末全体会議(於日本記者クラブ・  
会見場来賓3氏、会員28社34名出席)

日本新聞製作技術懇話会 会員名簿 (37社) 2023年1月現在

社名	〒番号	所在地
(株)イワタ	101-0032	東京都千代田区岩本町3-2-9
(株)インテック	135-0061	東京都江東区豊洲2-2-1 豊洲ベイサイドクロスタワー
NECプラットフォームズ(株)	270-1198	千葉県我孫子市日の出1131
(株)金陽社	136-0082	東京都江東区新木場1-1-1王子木材緑化ビル1階
コダック(同)	140-0002	東京都品川区東品川4-10-13KDX東品川ビル
コニカミノルタジャパン(株)	105-0023	東京都港区芝浦1-1-1浜松町ビルディング
サカタイクス(株)	112-0004	東京都文京区後楽1-4-25 日教販ビル
(株)システマック	520-2277	滋賀県大津市関津4-772-17
清水製作(株)	108-0023	東京都港区芝浦3-17-10
ストラパック(株)	221-0864	神奈川県横浜市神奈川区菅田町2800
西研グラフィックス(株)	842-0031	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町吉田135
第一工業(株)	335-0002	埼玉県蕨市塚越7-2-8
田中電気(株)	101-0021	東京都千代田区外神田1-16-9
椿本興業(株)	108-8222	東京都港区港南2-16-2 太陽生命品川ビル30階
(株)椿本チエイン	108-0075	東京都港区港南2-16-2 太陽生命品川ビル17階
DICグラフィックス(株)	103-8233	東京都中央区日本橋3-7-20 ディーアイシービル
東京インキ(株)	114-0002	東京都北区王子1-12-4 TIC王子ビル
(株)東京機械製作所	108-8375	東京都港区三田3-11-36 三田日東ダイビル6階
東芝デジタルソリューションズ(株)	212-8585	神奈川県川崎市幸区堀川町72-34 ラゾーナ川崎東芝ビル5階
東洋インキ(株)	173-0003	東京都板橋区加賀1-22-1
東和電気工業(株)	104-0032	東京都中央区八丁堀1-7-7 長井ビル6階
ニッカ(株)	174-8642	東京都板橋区前野町2-14-2
日本電気(株)	211-8686	神奈川県川崎市中原区下沼部1753
日本アイ・ビー・エム(株)	103-0015	東京都中央区日本橋箱崎町19-21
日本新聞インキ(株)	210-0858	神奈川県川崎市川崎区大川町13-8
日本ポールドウィン(株)	108-0023	東京都港区芝浦4-9-25 芝浦スクエアビル11階
パナソニックコネクト(株)	224-8539	神奈川県横浜市都筑区佐江戸町600番地
(株)日立産業制御ソリューションズ	110-0006	東京都台東区秋葉原6-1
(株)フジオ産業	115-0043	東京都北区神谷2-6-8
富士通(株)	105-7123	東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター
富士通Japan(株)	105-7123	東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター
富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ(株)	106-0031	東京都港区西麻布2-26-30富士フィルム西麻布ビル
富士薬品工業(株)	176-0012	東京都練馬区豊玉北3-14-10
HOUSEI(株)	162-0821	東京都新宿区津久戸町1-8 神楽坂AKビル9階
三菱重工機械システム(株)	729-0393	広島県三原市糸崎南1-1-1
三菱製紙(株)	130-0026	東京都墨田区両国2-10-14両国シティコア
明和ゴム工業(株)	146-0092	東京都大田区下丸子2-27-20

**CONPT**